

# 速報

# 琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2016年(平成28年)  
10月30日(日)

発行所 琉球新報社  
郵便番号 〒900-8525  
那覇市天久905番地  
©琉球新報社2016年

## 若者宣言

ちょうど5年前にもこの場でスピーチをさせていただきました。海外の若者と沖縄の若者をつなげたいと思い、世界のウチナーンチュ大会の若者版「世界若者ウチナーンチュ大会」を立ち上げて、5年がたちます。2012年、南米ブラジルで第1回世界若

者ウチナーンチュ大会を開催。13年北米アメリカ。14年ヨーロッパドイツ。15年アジアフィリピン。そして今年、故郷沖縄で「第5回世界若者ウチナーンチュ大会」を開催しました。大会をつくり上げるのはたくさんの苦勞がありました。5年間かけて世界10カ国以上から多くの若者が参加し、沖縄で初開催となった今年の大会は、これまで以上に沖縄県内4市町村との連携に力を入れ、沖縄県、市町村、地域の青年会に働き掛けてきました。無事に終わることができました。これも、皆さまのおかげと、深く感謝しております。フェイスブックでつながってるかもしれないが、こうして顔を合わせて「お帰り、ただいま」と言い合えることが何にもかえがたい素晴らしいことだと

思っています。沖縄に根づく伝統。世界と沖縄につながる感動。若者が熱く燃え上がり、最後まで歌って踊って笑い合いました。ここ沖縄は、皆さんにとって、いつでも帰ることができる場所です。次大会、開催がベルーに決まりました。これからは世界若者ウチナーンチュ大会が世界から愛される若者の祭典として

、若者が元気に感動を沖縄、そして世界に届けていきましょう！次につなげていくことを宣言とし、こあいさつとさせていただきます。若者の皆さんは、2年後にベルーで会いましょう！沖縄では5年後に会いましょう。(第5回世界若者ウチナーンチュ大会実行委員会・玉元三奈美実行委員長)

# 古里へ誇り胸に 5年後再会誓う



# ウチナーンチュの日宣言

## 世界のウチナーンチュの日制定宣言

我々は今日世界のウチナーンチュのみなさんに伝えたい。  
我々ウチナーンチュは持つている。  
我々ウチナーンチュは、未来を創造する力を持つている。  
我々ウチナーンチュは、世界へ飛び立つ勇氣を持つている。  
我々ウチナーンチュは、先祖への感謝の心を持つている。  
我々ウチナーンチュは、互いを助け合う相互扶助の心を持つている。  
我々ウチナーンチュは、互いを許し合う寛容の心を持つている。  
我々ウチナーンチュは、豊かな伝統文化を持つている。  
我々ウチナーンチュは、困難に打ち勝つ不屈の精神を持つている。  
我々ウチナーンチュは、先祖への感謝の心を持つている。  
我々ウチナーンチュは、互いを助け合う相互扶助の心を持つている。  
我々ウチナーンチュは、互いを許し合う寛容の心を持つている。  
我々ウチナーンチュは、豊かな伝統文化を持つている。  
我々ウチナーンチュは、困難に打ち勝つ不屈の精神を持つている。

## 5日間の祭典に幕

第6回世界のウチナーンチュ大会(同実行委員会主催)は30日、沖縄セルラースタジアム那覇で閉会式とグラウンドフィナーレを行い、全日程を終了した。前夜祭パレードを含めると5日間の祭典が幕を下ろした。期間中は新たな出会いや発見、再会の喜びと感動、世界で躍動するウチナーパワーが県内にあふれた。閉会式では10月30日を「世界のウチナーンチュの日」に制定することが宣言され、沖縄と海外のウチナーンチュがさらに連携し、絆を深めていくことを誓った。

本大会の海外参加者は7297人で、過去最多となった。28の国と地域から集まった世界のウチナーンチュたちは、県内に住むウチナーンチュと共に歌ったり踊ったりして沖縄の伝統文化を感じ、自らのルーツに思いをはせた。シンポジウムや会議を通じてウチナーネットワークの発展、継承の課題も確認した。世界若者ウチナーンチュ大会も県内で初めて開催され、20、23日の期間中、各国の若者と県内の青年会メンバーらが絆を深めた。

第7回大会は5年後。若者大会は2年後にベルーで開催される。閉会式の参加者は、別れを惜しみつつ、再会を誓った。





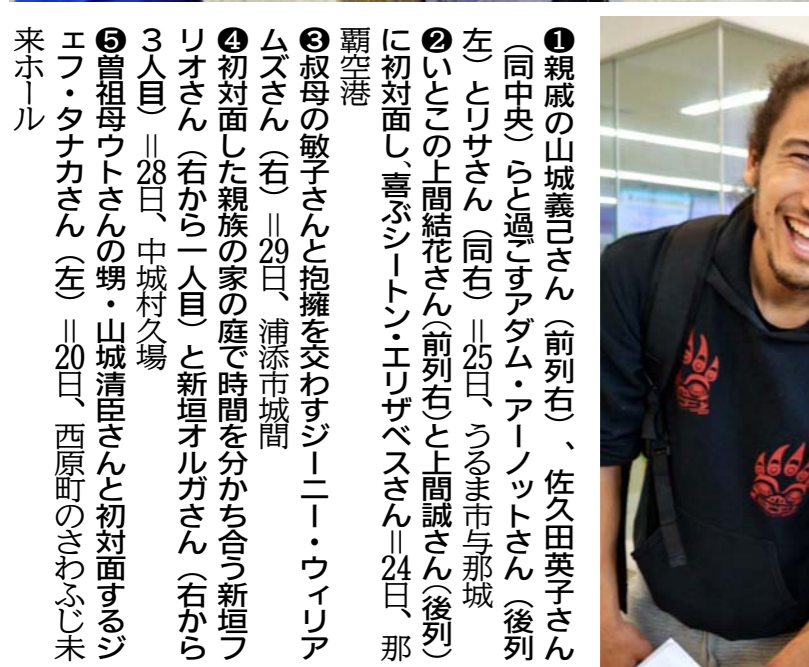
## 初対面

期間中、大会をきっかけに沖縄を訪れた海外県系人の3世、4世が親族を捜し出し、初対面を果たした。先祖の名前と出身地をたどり、親族と再会した人々は「とってもうれしい」「欠けていた自分の一部を取り戻したような気がする」と感激の言葉を口にした。

① アダム・アーノットさん(22)＝県系4世＝は25日、母リサさん(49)＝県系3世＝とうるま市与那城の民家が自治会長と一軒一軒尋ね歩き、親戚にたどり着いた。「お母さん、全てが繋がったよ!」「こんなビッグファミリーだったなんて」と喜びを爆発させた。

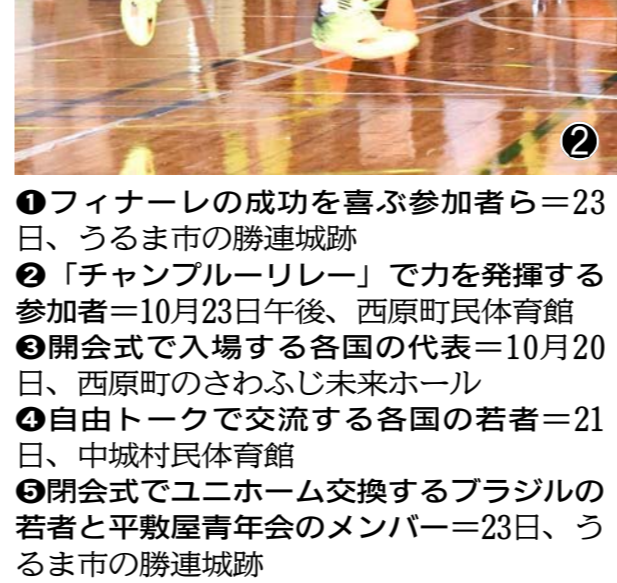
② アルゼンチンから来沖した県系2世の姉は大会期間中に県立図書館が実施したルーツ調査で祖父の昔の住所を知り、中城村久場を訪れて親戚と対面した。

親族と新たな絆を結びルーツは沖縄を強く確信した世界のウチナンチュ。再会を誓って沖縄を後にする。



## 若い力、結集

第6回世界のウチナンチュ大会に先立ち、10月20日～23日まで4日間、第5回世界若者ウチナンチュ大会(同実行委員会主催)が開かれた。5年前のウチナンチュ大会で開かれた若者国際会議から発展して誕生した若者大会。今年が初の沖縄開催だった。9カ国2地域から来沖した100人と、県内の高校生、大学生、社会人、青年会の若者が交流し、4日間で延べ2309人が参加した。世界に広がる沖縄コミュニティや芸能を紹介し合い、沖縄愛を語り、スポーツで共に汗を流した。若者達は「世界のウチナンチュの沖縄への熱い思いに圧倒された。」「これまで知らなかった沖縄の歴史を学んだ。」「やっぱり沖縄がルーツ」と語った。次回大会は2018年2月にベルギーで開催される。



① 親戚の山城義己さん(前列右)、佐久田愛子さん(同中央)らと過ごすアダム・アーノットさん(前列左)とリサさん(同右)。② 25日、とうるま市で那城。③ いとの上福輝さん(前列右)と山崎さん(後列)に初対面し喜ぶ、リサさんとアーノットさん(24日、那覇空港)。④ 叔母の敏子さん(抱擁をわすしー、ウリアムさん)と(右)＝29日、浦添市城間。⑤ 初対面した親戚の家の庭で時間を分かち合う新当りリオン(右)と、右から入目と新堀オルガさん(右から3人目)＝28日、中城村久場。⑥ 首飾ワタシの、山城義己さん(初対面)とエフタナカさん(左)＝26日、西原町のさわふじ未来ホール。

① フィナーレの成功を喜ぶ参加者ら＝23日、うるま市の勝連城跡  
② 「チャンプルーリレー」で力を発揮する参加者＝10月23日午後、西原町民体育館  
③ 閉会式で入場する各国の代表＝10月20日、西原町のさわふじ未来ホール  
④ 自由トークで交流する各国の若者＝21日、中城村民体育館  
⑤ 閉会式でユニホーム交換するブラジルの若者と平敷屋青年会のメンバー＝23日、うるま市の勝連城跡

① 親戚の山城義己さん(前列右)、佐久田愛子さん(同中央)らと過ごすアダム・アーノットさん(前列左)とリサさん(同右)。② 25日、とうるま市で那城。③ いとの上福輝さん(前列右)と山崎さん(後列)に初対面し喜ぶ、リサさんとアーノットさん(24日、那覇空港)。④ 叔母の敏子さん(抱擁をわすしー、ウリアムさん)と(右)＝29日、浦添市城間。⑤ 初対面した親戚の家の庭で時間を分かち合う新当りリオン(右)と、右から入目と新堀オルガさん(右から3人目)＝28日、中城村久場。⑥ 首飾ワタシの、山城義己さん(初対面)とエフタナカさん(左)＝26日、西原町のさわふじ未来ホール。